

## 英国慈善学校の組織化特性に関する研究（その5）

— 近代性の継承 —

The Research on the Organizational Characteristics in the British Charity Schools. No5  
— The Inheritance of the Modernity —

柘 植 秀 通

18世紀は、イギリスの博愛事業が大いに発展した時代である。イギリスの博愛事業が発展する過程では、これまで報告してきた慈善学校運動における最初の組織化の努力を継承していった。18世紀を通して、この特徴は引き継がれ、さらには、19世紀にいたっても、博愛事業は多くこの特徴を受け継いでいる<sup>i</sup>。特に、基礎教育に関わった国民協会(The National Society)はSPCKの直系の子孫にあたる(Owen 1964:116)(Allen 1898:153)。本報告では、こうした継承を、その特徴ごとに探っていきたいと思う。

### 第1節 会費と会員のシステム

今まで述べてきたように、博愛事業の基礎には、会費と会員のシステムがある。慈善学校に続く多くの博愛事業も、会費と会員のシステムを継承していった。そのシステムの詳細については、次節以降に記すが、ここではそれぞれの機関の会員システムの概要を述べるだけにとどめよう。

まず慈善病院が会費と会員のシステムを継承したものとして挙げられる。18世紀前半には様々な病院があるが、ここでは筆者が保有するケンブリッジの病院についてみていくこととしよう。この病院は、院長にケンブリッジ地区の州知事をいただく、公的性格の強いものであったが、やはり会費によって運営された。そのため、以下のように一定額の会費を納める者は、理事として運営の最高機関である理事総会のメンバーとなった。

「3. …当該病院の会計(Treasurer)また会計代理(Treasurers for the time being)たちに、当該病院の用に供するため、一度に21ポンド以上の金額を支払った者、または支払う意志のある者はいかなる者も当該病院の理事(Governors)となる。そしてまた、当該会計または会計代理たちに、当該病院の用に供するために、年額2ギニー以上を支払う意志を示した全ての者は、その金額を支払う間、銘々当該病院の理事となる。」

(Public Hospital in the Town of Cambridge 1778:2)

また、

「6. 当該理事たちが集合したあらゆる総会(General Court)は、当該病院の院長(President)および理事会(Governor)の共同の名前において、完全な力(Power)と権威(Authority)をもつ。」

(Public Hospital in the Town of Cambridge 1778:3)

<sup>i</sup> たとえば、慈善組織協会もその基礎は会費であったし(市瀬 2004:140)、地区委員会の下に、多くの作業委員会が設けられるように、下部委員会が上部委員会の指令のもとに活動するという組織構造を持っていた(市瀬2004:142)。さらに、SPCKや、以降に記す「棄子養育園」や「マリン・ソサエティ」は現在に至るまで活動している。

とあるように、会費を支払う者たち（この場合は、会員という名称ではなく、理事（Governor）であるが）の総会（Genral Court）が、最高意志決定機関としての地位を持っていた。

また、ワークハウスにおいても、たとえば、キングスリンのワークハウスは、慈善学校に先立つ1682年からすでに会費によって支えられていた（Slack 1999:113）。

しかし、エセックスのコルチェスターのワークハウスでは、以下のように、会費として金銭を拠出するのではなく、一定額の救貧税を支払う住民が、法人組織の基礎を担う保護人（Guardian）を選出する権利を有していた。

「コルチェスターにあるワークハウス法人（Corporation）は、年5ポンドの救貧税を貧民のために支払った住民の選出する48人の保護人によって構成される」

（Unknown 1725:58-59）

このように、公的救貧税によって支えられていても、救貧税を支払う町民が、博愛事業における会員のようその運営の基礎を形成しており、その点では、会員システムと共通する構造を有していたと言える。

次に、棄子養育園を見ると、通常の会員制とは少々異なるシステムを採用している。ここでは、会員（SubscriberまたはSubscribing member）という名称ではなく、理事（Governor）という名で、運営の基本となる総会（General Court）の構成員が表わされているのである。この人々は

「§. 5. 四半期総会（Quarterly Court）

…あらゆるこれらの総会（General Meeting）では、理事と保護人（Guardian）が選出される。彼らは50ポンドにのぼる献金を供出した人（Benefactor）から、またはそれ以前の集会で候補に挙がった人から、さらには総合委員会（General Committee）の推薦を受けた人から選ばれる。…（臨時総会（Extraordinary Court）の規定）」

（Foundling Hospital 1759:6）

と、通常の会員システムのように、会費を拠出した全ての人が入るわけではなく、50ポンドという高額の献金を行った人などから選出されることになっていた。また、理事たちによる推薦等によっても、この選出が行われていた。その点では、棄子養育園はかなり閉鎖されたグループが運営したシステムと言え、他の博愛事業一般とは異なる面を持つ。

ただし、この事業も同時に次節以降に示す民主的特徴等を有しており、博愛事業の脈略でとらえられるべき事業である。

次に、マリーン・ソサエティについてであるが、“To the Marine Society”には、その収支報告書の収入欄に、会費による収入のみが記載されている（Unknown 1758:11）。1756年6月から1757年12月31日までの収入として、会費の総額11,511ポンド11シリング6ペンスが書かれている。また、その期間の支出として3,097人の成年男子への衣服を提供する費用、2,045人の若者や少年に対して、衣服の提供とともに、宿泊の場を提供する費用や、職員の給与などに総額10,846ポンド6シリング3ペンスを支出したことが書かれている。このことから、マリーン・ソサエティでは、会費以外の収入が、少なくともこの期間には存在しなかったことを示す。しかし、マリーン・ソサエティでは、会員に関する明快な規定は存在しない。ただし、以下のように、四半期総会（Quarterly Court）では、会員を基本としている様子が描かれている。

「XIV. 四半期総会

…その時に収支報告（accounts of receipts and disbursements）が会員（subscribers）の前に提出される。」

（Hanway 1759:80）

次に18世紀終わりに起こった日曜学校運動を見てみよう。この運動の中心となる日曜学校協会では、協会自ら慈善学校の働きを受け継いだことを述べている（Unknow 1787:4）。この日曜学校協会は、以下のように、その規約の冒頭に会費を支払う会員を基礎としたシステムによって構成されていることを宣言している。

「2. 年1ギニーの会費を拠出する者は、彼がその会費を拠出し続ける間は、理事である会員（subscriber a Governor）となる。」

（Unknow 1787:9）

また、筆者はその一次資料を持たないために明言はできないが、慈善組織協会も同様の会員システムによって運営されていた（市瀬 2004:140）。

このように、多くの博愛事業は会費と会員のシステムを導入していたし、それを当然のことと考えていた（Picard=2002:111）。そして、このシステムは、19世紀に至るもかわらず、現在にいたるまで同様のシステムで運営されている機関は多い。

## 第2節 目的の明示

慈善学校に続く多くの博愛事業が、慈善学校および慈善学校運動と同様、その事業の目指す目的を公表し、自らの事業の意図を明確化し、会員の獲得を目指した（Andrew 1989:4）。これは、2015の紀要において示したように、意図を同じくする者による新たな組織の創造を意味する。この点について、慈善学校に続く各事業についてみていこう。

慈善学校に続く慈善事業であるが、筆者の資料には、慈善病院に関する一次資料が乏しく、慈善病院における目的の明示については明言できない。しかし、Hospitalというものを、現在と同様、病人の看護と治療に限定的にとらえ始めた最初の事業であるだけに、限定された目的の明示があったことは確かであろう。

慈善病院に続く博愛事業として、本研究は棄子養育園をあげたが、この棄子養育園においても、目的の明示は、はっきり行われている。棄子養育園における目的の明示、特に会費を集めるための目的の明示は、棄子養育園設立のために奔走した、以下に記した何人かの婦人たちと作成した陳情書に表れている。

表 1

**6 Account of the Foundling Hospital.**  
and guardians of the Foundling Hospital; constituting them a corporate body; authorizing the purchase of real estates not exceeding £.4000 a year, and appointing courts, (at which the presence of 13 governors at least should be required) for the election of committees, a president, and other officers, and for the general acts of the corporation.

It may be necessary to shew how far the Foundling Hospital differs from all foreign charities for foundlings; and to explain why a limited establishment of this kind is proper in England, altho' the system of general reception is rendered unnecessary, by the institution of our poor laws.—The existence of such a code, and the establishment

“ judge most proper for attaining the desired effect of our good Intentions.”

<i>Charlotte Somerset.</i>	<i>F. Wa. and Nottingham.</i>
<i>S. Richmond.</i>	<i>E. Cardigan.</i>
<i>H. Bolton.</i>	<i>Dorothy Burlington.</i>
<i>Anne Bolton.</i>	<i>F. Litchfield.</i>
<i>J. Leeds.</i>	<i>A. Albermarle.</i>
<i>A. Bedford.</i>	<i>F. Biron.</i>
<i>M. Cavenaish Portland.</i>	<i>A. Trevor.</i>
<i>J. Manchester.</i>	<i>A. Torrington.</i>
<i>F. Hertford.</i>	<i>E. Onslow.</i>
<i>M. Harvel.</i>	<i>A. King.</i>
<i>S. Huntingdon.</i>	

この文書では

「特にロンドンでは、多くの優れた慈善の設計 (design) と建立 (Institutions) が行われているが、誕生まもない貧しい哀れな幼子が、しばしば殺されていく (frequent murders) ことを防ぐための良き対策は未だ行われていない。…我々、以下に署名した者は、このような貧しく、捨てられた、寄る辺なき幼子の、苦しみ悲しむべき状況に、深く同情し、…貧しく哀れな、捨てられた子供たちを、良き忠実な召使 (good and faithful servants) にと為すために、…また彼らが仕事に就けるまで、彼らの生活保護と適切な教育 (maintenance and proper education) に、年ごとの収入を投じるために、…幼子のために施設 (hospital for infants) を建設するため献金をしようとしている。…王により勅許状 (Royal Charter) が与えられ、陛下がその承認をして、その施設の建設に基本財産寄付 (endowing) をしてくださるよう願う。…」

(Jones 1799:6)

と記されている。これにより、勅許状が与えられ、棄子養育園がつくられていくこととなる。

また、棄子養育園のために作成された読本の冒頭にも、

「我々の信頼し、愛する臣民サムエルの寡黙な紳士<sup>ii</sup>が、日々遺棄され、破壊されていく膨大な数の心ある幼児たちのために、彼の請願によって、それは、我々の知的 (Wit) で機智に富む (Humor) 両性の方々 (その方々は、一般新聞に、これらの麗しき幼児らが、非人道的習慣 (inhuman Custom) によって捨てられ、飢えさせられて殺されることが掲載され、月刊誌に、ゴミだめの中に埋められ、窒息させられることが掲載されることに、心を痛める人々である) に、恭しく推薦され、その文書 (Instruments) に署名することによって、彼らがそうした、捨てられ見捨てられた産み出された者 (子供たち) の受け入れ (Reception) と維持 (Preservation) のための施設 (Hospital) を建て、支えるために自由に献金をするという意図を宣言する」

(Unknown 1743:1-2)

とあり、その意図を明示している。こうした目的の明示は、棄子養育園の様々な文書に登場し、なぜ人々が棄子養育園を開設・運営するために努力を注入し、会員となっていたかを示している。また、人々

<sup>ii</sup> トーマス・コーラムを指す。



にこの事業への協力を進言し、施設を支える根本となっていった。

次に、マリーン・ソサエティでは、その設立の当初から、設立趣意書を作成、頒布していた（Hanway 1757）。その内容は、フランスとの重商主義的競争から海軍増強の必要性を説き（Hanway 1757:2-5）、そのために

「王国海軍（Royal Navy）の規定によれば、召使として、3～4千人の青少年が必要とされる。…政治的視点からみて、この有益な目的の実施、すなわち、これらの青年を王国の船団（King's ships）に送ることが、マリーン・アソシエーション（Marine Association）の一つの大きな目的である」

（Hanway 1757:6-7）

と、マリーン・ソサエティが存在する目的があることを明示している。

同時に、

「しかし、ソサエティが、重要な関心を戦争に向けている間に、平和の業をさせることにもまた彼らは努力している。それは農業（Agriculture）や商業（Manufactory）が、ふさわしい働き手を求められず、廃れ、衰退しないようにすることである。そのため、彼らは、最も貧しい者たちから、これらの若者を探し集めている」

（Hanway 1757:8）

と、様々な分野の仕事へ派遣する青年を養成することを目的としていることも述べている。そういった実用的な面だけでなく、

「自らを支ええない者たちに、飢えていた時に食べさせ、裸のときに着せる<sup>iii</sup>ことは、天国の祝福が約束される徳である。至福の選択が死から魂を救いだし、地獄の顎（あぎと）（jaws of perdition）に飲み込まれるこれらの若者を減らすことになる。それは、彼らに社会的知識と宗教の義務を与えることによってである。…これらはまさに慈善の目的であり、真の愛国主義（patriotism）を含む」

（Hanway 1757:9）

と霊的救済にまで踏み込み、

「このように、多くの尊敬すべき人々によって、当座の援助（care）と保護（protection）のうちに保ち、多くの不幸なことがらのための会（asylum）を建て、怠惰のうちに食を食むことなく、彼らの生を普遍の善へと向けるようにするために、マリーン・ソサエティが立てられた。」

（Hanway 1757:12）

と、この組織の目的を明示している。さらに、児童の教育だけでなく、成人の無知なる者たちへの教育も含めて、マリーン・ソサエティの目的としている（Hanway 1757:14-17）。

そして

<sup>iii</sup> 新約聖書のマタイによる福音書25章の内容を受けている。

「貴族 (Noblemen) も、郷紳 (Gentlemen) も、市民 (Citizens) も、商人 (Merchants) も、政治的信条が異なろうと、愛国心 (patriot spirits) のある者たちは、自由な献金のみでなく、この協会の確立に、尊厳 (dignity) をもって自ら役割を引き受け、互いに競い合うごとく、この人間的で高貴な活動に参加して下さった。本当に、この協会への支援以上に偉大な目標を見据えた効果的な答えがあるだろうか」

(Hanway 1757:21)

と、多くの人が協力を与えてくれたことと、暗に、マリーン・ソサエティへの支援を人々に要請している。

マリーン・ソサエティの趣意書と同様に、日曜学校運動でも、その支援のための計画を立てられ、その目的を以下のように高らかに謳っている。

「それらの学校の影響の拡大と有利さを実現し、子供たちに聖なる御言葉 (sacred oracles) が何を言わんとしているかを学ぶ機会を与え、それ以上に彼らを悪徳 (vice) の下劣な習慣 (low habits) と怠惰 (idleness) から救い、彼らをして道徳と宗教に満ちた人生の道に歩ませることが、ここに提案される目的である」

(Unknown 1787:5-6)

日曜学校運動も、こうして高らかに自らの目的を宣言しているが、この計画の中でも述べているように、この事業は慈善学校の活動を継承し、工業化のために週日の学校へ通えなくなった者たちを支えるために行われたのである (Unknown 1787:4-5)。まさに、この目的も含め、慈善学校および慈善学校運動を、直接に継承して、19世紀につなげる役割を果たしたと言える。

こうした目的の明示は、19世紀においても、たとえば慈善組織協会でも行われている (市瀬 2004:140)。また、17世紀に始まり、現代にまでいたる慈善の大きな特徴とさえ言える (Andrew 1989:4)。

### 第3節 民主的体制

慈善学校運動、特に SPCK の特徴に、その民主的体制があることは言及した。このような体制は、その後の慈善の働きの中に受け継がれていくこととなる。特に、会員を基本とした民主体制が、その基礎であるが、長谷川はそれを「寄付者民主主義」と呼び、(長谷川 1999:23,63) 博愛事業の特徴となっていく。

たとえば、慈善病院の中で、ウェストミンスター病院は、特にその体制が民主的であることで知られている。その後には、セントジョージ病院のように、会費の額による会員の差別があらわれてくる (Gray 1905:130) が、この差別を持ちながら、民主的体制を持ち続けていった。(このような差別は、慈善学校では、時代を経たのちにも出てはこない<sup>iv</sup>。)

ワークハウスの中にも、エセックスのコルチェスターのように、救貧税を年5ポンド以上支払うとの条件付きではあるが、全町民に48名の後見人 (Guardian) を選出する権利が与えられているケースがある (Unknown 1725:58-59)。SPCK も、18世紀前半には、ワークハウスの報告書を出版するなど (SPCK 1741:7)、深く関わっており、ワークハウスの中にも、SPCKの影響を受けたものが数多くあった。この報告が、慈善学校をも含んでいる点からも、コルチェスターの場合もSPCKの影響を受けていることが考えられる。

<sup>iv</sup> SPCK の規約には、一切金額に関する規定はない (SPCK 1732)

一方、棄子養育園は、その創設時に王への請願書にサインをした理事（governor）たちによる民主的決定によって運営された（Foundling Hospital 1759:3-5）。棄子養育園の規約（Regulation）には特にその最高議決機関である総会（General Court）について、以下のように、理事による多数決が規定されている。

「総会は、少なくとも13人の理事により構成されねばならない。…園長（President）…が、司会する。…集会（Assembly）の仕事について解説し、問題があり、要求があれば、投票（Ballot）を行う。投票の数を宣告し、同数の場合は、彼が2倍(double)の投票権を持つか、決定権(casting Vote)を持つ。

出席理事の多数決（Consent of the Majority）によらなければ、総会は延長する。」

（Foundling Hospital 1759:3,4）

ここに、長谷川の述べる寄付者民主主義と同様の理事民主主義があった。

次に、マリーン・ソサエティであるが、ここでも総会（General Court）が開かれた。が、総会は事務員を投票によって選出すること以外は、特にすべきことの規定がない。代わりに、以下のように、総合委員会（General Committee）が最高意志決定機関として存在している。ただし、ここには委員のみでなく、全会員が出席可能であることが以下のように述べられている。

#### 「XV・総合委員会

この会は、毎木曜日12時に、王室警護の交代（Royal Exchange）を挟んで、船員事務所（Seamen's office）で集まり、一般的には3時まで行われる。当協会に関わる書籍（books）が、要求に従って、机上に用意され、委員会の成員のみに限らず、出席を望んだ全会員（subscriber）に対しても、閲覧に供される。

もし、新たな規約（regulation）が必要と思われたなら、時の経過に従い、以下のように決定される；全ての変更・改善の提案は次回の集まりにて言及される。そして、結果が確定されるまでは、いかなる事案も行われることはない。」

（Hanway 1759:81）

マリーン・ソサエティも、このような規約の中で、民主的原則を持ちながら、その活動を行っていた。

次に日曜学校協会についてみてみよう。この組織の民主性は、以上見てきた中でも、もっともはっきりしているといえよう。その点では、まさに慈善学校の特徴を、より強力に発展させた機関と言える。そこには、以下のように、最も明確な形で、しかも最も容易に運営に参加できる規約を採用している。

「I. この協会は、1人の会長（President）と、4人の副会長（Vice-Presidents）、1人の会計（Treasurer）と全理事（all the Governors）によって構成される。

II. 年1ギニーの会費を納めるものは、会費を納め続ける限り、理事である会員となる。

III. 10ギニー以上の献金（donation）を一度に、または1年のうちに収めたものは、生涯にわたり（for life）、理事となる。そして、それよりも少額の献金も、感謝のうちに受け付けられる

IV. 総会（General Meeting）は、1月、4月、7月、そして10月の第2水曜日に持たれ、その総会において、7人の理事が評議会（Board）を構成する」

(Unknown 1787:9-10)

この規定、特に2と3の規約は、慈善組織協会の規定と共通する（市瀬 2000:140）。

これらの例にもあるように、慈善学校の民主的体制は、そのまま直線的に受け継がれてきたのではないが、様々な事業において、行きつ戻りつしながらではあるが、次代の慈善事業に引き継がれていった。

#### 第4節 規約の制定

この規約の制定、特に意志決定方法の確立は、2015年の紀要で述べた、それ以前にはあまり見られることのなかった、慈善学校以来の大きな特徴である。

私的博愛事業とは異なるが、ワークハウスにおいても、ストラウド（Stroud）のワークハウスでは、以下のような理事会による運営方針の決定が、規約として提示されている。

「ワークハウスの理事らが、ワークハウスを今後指導していくために守るべきとされた、1722年11月15日に作成された、ストラウドの教区総会（Vestry）での決議（Resolutions）

I. 12名の理事が1年の間、ワークハウスの諸事項（Affairs）を指導するために、専任される。そして、ワークハウスの状況を、四半期ごとの教区総会に報告する。…

VII. 全ての理事は毎日曜日、夕礼拝の後に、前週に記録された議事録についての助言、新たな状況による何らかの新しい規約（fresh Rules）の制定を行う。

VIII. もし、何らかの困難な状況が生じたならば、訪問した2名の理事が決定を下すことなく、週ごとの理事会（Weekly Meeting）に提案される。また、緊急を要する事態が生じたならば、過半数（Majority）の理事が招集され、事態にあたる。

IX. この事項（Affair）についてなされた決定（Resolution）、そこに至る過程（Steps）は、全てワークハウスの記録に保管され、あらゆる教区民（Parishoners）が満足できるようにする（おそらく閲覧可能な状態に置くことを指すであろう）。もしくは、そのような事態に関し、他の場所ではどのような解決が行われたかを望めば追跡できるようにしておかねばならない」

(Unknown 1725:43-44)。

この後にも、しばしば、理事の過半数による（by a Majority of Governors）決定という表現が現れ（Unknown 1725:44,45）、過半数を基本とする理事会の決定が意志決定の基本にあることが述べられている。ただし、ワークハウスは、民間福祉事業とは異なるため、規約Iのように、教区がその上位に存在し、総会の地位を占めているといえる。それでも、理事による民主制を保持しており、さらには、教区民（Parishoner）に対しても開かれており、教区という言葉の中で、聖職者らの高位階のもののみによる専横は、規約にはみうけられない。

慈善病院も、同様に組織の意志決定に関する規約の制定が行われている。ケンブリッジの慈善病院においては以下のような規定がある。

「1. この病院の統治は、院長（President）とケンブリッジにあるアデンプルック（Addenbrooke）病院の理事会（Governors）のメンバーとなる人々の手に委ねられる。下記の人々が結束し、永続してその任（Succession）を負い、共通印章（Common Seal）を保有する。

2. 敬愛するハードウィック（Hardwicke）伯爵（Earl）フィリップにしてケンブリッジ地区



(County of Cambridge) 州知事 (Lord Lieutenant) が、また当該伯爵が逝去したのちには、ケンブリッジ地区州知事代理 (Lord Lieutenant...for the time being) が当該病院の院長となる。

3. 敬愛するハードウィック伯爵フィリップにしてケンブリッジ地区州知事、次にケンブリッジ地区州知事代理、ケンブリッジ大学学長代理 (Chancellor ...for the time being)、エリーの首席司祭代理 (Lord Bishop ...for the time being)、敬愛するモンフォート卿 (Lord Montfort) トーマスにしてケンブリッジ共同体 (Corporation of Cambridge) の首席書記官 (High Steward)、同首席書記官代理 (High Steward...for the time being)、ケンブリッジ地区の長官代理 (High Sheriff...for the time being)、議会において地区、大学、ケンブリッジの町のために推薦された者たち (Representatives)、ケンブリッジ大学副学長代理 (Vicechancellor ...for the time being)、ケンブリッジ町長代理 (Mayor of the Town of Cambridge)、また当該病院の会計 (Treasurer) または会計代理たち (Treasurers for the time being) に、当該病院の用に供するため、一度に21ポンド以上の金額を支払った者、または支払う意志のある者はいかなる者も当該病院の理事 (Governor) となる。そしてまた、当該会計または会計代理たちに、当該病院の用に供するために、年額2ギニー以上を支払う意志を示した全ての者は、その金額を支払う間、銘々当該病院の理事となる。…

5. 理事たちの総会 (General Court of Governors) は、毎年最低4回当該病院において持たれる (それは、3月25日直後の月曜、また6月24日直後の、9月29日直後の、12月25日直後の月曜である)、…

6. 当該理事たちが集合したあらゆる総会 (General Court) は、当該病院の院長および理事会 (Governors) の共同の名前 (Name of the Corporation) において、完全な力 (full Power) と権威 (Authority) をもつ。…

(Public Hospital in the Town of Cambridge 1778:2,3)

この病院は、極めて公的性格が強いが、その運営は公的拠出によってではなく、会費によって賄われていたため、慈善病院としてとらえてかまわないだろう。その病院の規約においても、会費を支払う会員によるこのような理事の総会を最高意志決定機関として規定していた。

次に、棄子養育園をみると、その規約には、以下のように、運営組織の概要が示されている。

#### 「§. 1. 法人 (Corporation) の規定 (Regulations)

この法人 (Corporation) は、議会の憲章 (Charter) と法 (Act) によって権能を授与され、理事 (Governor) と保護人 (Guardian) の集会である、総会 (General Court) または集会 (Meeting) によって、または毎年の総会によって選出される、養育園の資産 (Estates) と動産 (Effects) を管理する、総合委員会 (General Committee) と呼ばれる委員会が、選出された人々によって活動する」

(Foundling Hospital 1759:3)

その後には総会開催法、次に総合委員会の選挙を行う年次総会 (Annual Court) の在り方が続く。次に第4項として以下のような選挙の方法の規定がある。

#### 「§. 4. 選出 (Election) の方法 (Method)

選出は投票 (Ballot) によって行われる。二人の選挙管理人 (Scrutineers) が、投票以前に挙手 (hands present) により選抜 (nominate) される。…理事が投票 (vote) を行うときは、

書記が理事の表 (List of Governors) の彼の名前にしるしをつける。…園長 (President)・副園長 (Vice-President)、そして会計 (Treasurer) がまず選出されるが、彼らは常に総合委員会 (General Committee) のメンバーとなる。

彼らが選出される際に、54名の他の理事が選出され、上記メンバーと総合委員会を構成し、園の諸事 (Affairs) を管理 (manage) し処理 (transact) する。…この委員会の選出に関わるあらゆる議題 (Dispute) は、出席理事の過半数によって決する。…」

(Foundling Hospital 1759:5)

次の第5項には四半期ごとの総会に関する規定があり、この総会でのみ賃貸契約や内規が決定されることや監査について規定されている。特にその中には、理事と保護人の選出規約が以下のように記されている。

「§. 5. 四半期総会 (Quarterly Court)

…あらゆるこれらの総会では、理事 (Governor) と保護人 (Guardian) が選出される。彼らは50ポンドにのぼる献金を供出した人 (Benefactors) から、またはそれ以前の集会 (Meeting) で候補に挙がった人から、さらには総合委員会の推薦を受けた人から選ばれる。… (臨時総会 (Extraordinary Court) の規定)」

(Foundling Hospital 1759:6)

このように、年次総会と四半期総会には、優劣の差があるのではなく、上述のように、年次総会では総合委員会の選挙を行い、四半期総会では運営に関することと、理事と保護人の採否を決定するという機能の差がある。

その後、総合委員会の規定があるが、その中で園の運営に関する重要な規定が以下のようにある。

「§. 6. 総合委員会 (General Committee)

総合委員会では、メンバーのうち7人以上がおれば、臨時総会により、作成され確立された、規則 (Rules) や命令 (Directions) に従い、この法人 (Corporation) の事案 (Affairs) の運営 (manage)・処理 (transact) を行う権能 (Power) を有す。…総合委員会におけるすべての課題は、要求されれば、投票における多数決 (Majority, by Ballot) によって決せられる」

(Foundling Hospital 1759:6-7)

その後には、各種の委員会構成や会計の役割、その他の職員のあり方が規定されている。さらに、別の規約集 (20-36) には、病院の実務に関する規約が記載されている。

しかし、重要なことは、上述のように運営の基礎となる理事の選出、さらに運営方策の決定・実施を行う権能の規定がここで定められていることである。この点が慈善学校の規約の持つ重要な要素であり、博愛事業の流れの中で受け継がれてきたものと考えられる。

一方、マリー・ソサエティにおいても、棄子養育園と同様、年次総会と四半期総会が以下のように、規約において規定されている。ただし、マリー・ソサエティでは年次総会がGeneral Courtと呼ばれ、

「XIII. 総会 (The General Court.)

これは、毎年7月の第一木曜に持たれ、そこで報告が作成され、何人かの事務員 (officers)

が選出される

#### XIV. 四半期総会（The Quarterly Court）

これは、1月、4月、7月、10月の第一木曜に持たれる。その際に、収支報告書（accounts of receipts and disbursements）が会員に提出され、その間に入会した男性と少年の数が知らされ、そして同様に計画に改良が加えられ、報告の要約（abstract）の出版が命じられる。」

（Hanway 1759:80）

上記のように、分けて規定されている。しかし、よく条文を見ると、7月の4半期総会は、そのまま総会の日程であり、本当の意味で、別に規定されているわけではなかった。

その後には、前節にあげた総合委員会の規定がある。しかし、実は、それに続いて総合委員会での業務内容が定められている。そこには、業務・書簡・会費等に関する各種の報告が行われ、会計報告、児童の保護の状況、必要とされる船員の状況等が各担当者から報告されることが明示されている。これらの報告を受け、委員会は前節に示したように、規則を作り、決定していく。このような全業務の指導がこの委員会に付託されている。

これらの組織運営に関する基本構造が規約には記されており、しかも、名称等から棄子養育園の習慣を継承していることが見て取れる。

日曜学校協会も、3節で述べたように、その規約の冒頭に組織構成の基礎となる理事規定をのせている。続いて以下のように、意志決定の仕組みについて記している。

「IV. 総会（General Meeting）は、1月、4月、7月、そして10月の第2水曜日に持たれ、その総会において、7人の理事が評議会（Board）を構成する

V. 会長（President）、副会長（Vice-President）、また会計（Treasurer）、また委員会の7名が賛同すれば、一週間一般紙（public papers）での告知を与えたのち、総会を招集する権能（Power）を有する。

VI. 委員会（Committee）は、国教会（Church of England）のメンバーとプロテスタント非国教徒（Protestant Dissenters）が等しく構成し、理事の中から、1月の総会で毎年選出される24名で構成される。委員会は、毎月の最後の水曜日に集まり、協会の業務（Affairs）を指導する。会長、副会長と会計は、全ての委員会のメンバーとなる。また委員会の定足数（quorum）は5名である。

VII. 会長、副会長、会計、または書記（Secretary）が死亡または退任により、空位（vacancy）が生じた場合、総会の承認（approbation）を得るべく候補が推薦される。

VIII. 理事になって暦上12か月（twelve calendar months）を経っていない理事は、総会においてこの慈善のいかなる任命（appointment）の投票（vote）も行わない。」

（Unknown 1787:10-11）

これらの規則の特徴を、特に意志決定の規則を、上述の慈善事業や特に影響を受けた慈善学校から引き継いだといえる。

## 第5節 情報公開

この情報公開の特性も、その後の慈善事業に受け継がれていった。まず、ケンブリッジの慈善病院では、病院の報告書の提出と出版が、献金者のために行われていた。

「32. その年の病院の状況 (State of the Hospital) や、入退院した患者 (Patients) の数 (Number) についての報告 (Report) や、毎年末に起草される報告 (Account) の要約 (Abstract) を、前年の監査 (Auditors) によって、献金者 (Contributors) の得心 (Satisfaction) に寄するために発行する」

(Public Hospital in the Town of Cambridge. 1778:7)

また、病院で雇用されている事務員等は、以下のように理事の要求があれば、ただちに報告する義務を持っていた。

「42. すべての事務員 (Officers) また病院 (Hospital) に雇用されている他の者 (other Persons) は、理事会 (Governors) により、また9名以上の理事の要求により、宣誓をして彼ら自らの筆記による、真実の (true)、正確 (exact) で完全な (perfect) 報告 (Account) を作成し、当該理事らに手渡さねばならない。」

(Public Hospital in the Town of Cambridge. 1778:8)

このような報告の義務を通して、特に病院の状況また勤務する者の状況等を理事を通じ、会員を中心とする献金者に公開されていた。

次に、棄子養育園においても、法人の監査委員会による監査と、総会への報告義務が以下のように掲載されている。

「クリスマス後の四半期総会 (Quarterly Court) において、総合委員会 (General Committee) のメンバーでない7名の理事が委員会 (Committee) を構成し、付則 (By-Law) にしたがってその目的のために、この法人 (Corporation) の報告監査 (auditing the Accounts) に任命される。

受胎告知の日 (Lady-Day) 後の四半期総会 (Quarterly Court) において、当該委員会の報告 (Report) は受け取られる。そこで承認されたならば、13名の理事の署名が行われ (Sign)、印刷を命じられる。」

(Foundling Hospital 1759:6)

また、会計報告を含めた年次報告が作成され、以下のように会員に報告を行うことになっていた。

「報告 (Accounts) は、受胎告知の日後の四半期総会において理事たち (Governors) の前に提出され、また、5月の第2水曜日の年次総会 (Annual Meeting) において、付則 (By-Law) にしたがってその目的 (Purpose) のために、特別委員会 (Special Committee) にまず監査を受けなければならない。」

(Foundling Hospital 1759:14)

さらに、情報を文書として保管することが強く義務付けられ、書記は以下の文書を保持することを規定されていた。

「書記が保持すべき文書

1. 会議事録 (Agenda Book)
2. 総会 (General Court) の議事録 (Minute) (下書き (foul) と公式な (fair) もの)



3. 総合委員会（General Committee）の議事録（下書きと公式なもの）
4. 下部委員会（Sub-Committee）の文書（Book）
5. 書籍（Book）とした書簡（Letter）の写し（Copy）
6. 年次寄付（Annual Benefaction）の登録文書（Register Book）
7. 現金寄付の記録（Benefaction-Book）
8. 当園（Hospital）に何らかの遺産を与えとの、全ての遺書（Wills）、または遺書の一部（Parts of Wills）を掲載した文書（Book）
9. 当園に寄付された、また購入した、土地（Land）および資産（Estate）の名目（Titles）の要約（Abstract）を納めた文書
10. 当法人（Corporation）によって、または当法人に賃貸されたもの（Leases）またその証書（Deeds）を記した文書
11. 憲章（Charter）、議会の法（Acts of Parliament）、付則（By-Law）、規則（Regulation）等、時の経過に従い、当園を運営するため（Government）定められた規則等を記載した文書
12. 法人（Corporation）に関する、すべての契約（Contracts）、合意書（Agreements）の文書

（Foundling Hospital 1759:15,16）

このような情報の公開・保管が規約に定められる形で行われていたのである。

マリーン・ソサエティも同様に、会員に対して、ソサエティの情報を知らせるシステムを持っていた。それは、慈善病院や棄子養育園同様、総会と報告を通して行われていた。4節に既述したように、ソサエティの状況を伝えることは、年次総会ではなく、四半期総会において行われていた。そこでは、会計情報、運営情報が会員に伝えられていた。

また、マリーン・ソサエティでも、上記の棄子養育園同様、多くの文書が記録として保管されていた。そこに挙げられているものは、以下のとおりである。

1 成人男子登録帳（Entry-book of men）の下書き<sup>v</sup> 2 公式（fair）成人男子登録帳 3 児童登録帳（Entry-book of boys）下書き（foul） 4 公式（fair）児童登録帳 5 会員名簿（list of Subscribers） 6 領収帳（Receipts-book） 7 くじ（draft）の写し（Copy-book） 8 報告（accounts）の写し（Copy-book） 9 議事録（Minute-book）下書き 10 公式議事録 11 成人男子（Men）のアルファベット順の登録帳（Resister-book） 12 児童（boys）のアルファベット順の登録帳 13 在庫帳（invoice-book） 14 すべての収支（Receipts and disbursement）、在庫帳、その他の仕訳帳（Journal） 15 元帳（Ledger） 16 書簡（Letters）を納めた文書の写し 17 少年の受け入れ帳（Receipt-book） 18 薬剤師（Apothecary）に関する本 19 会議事録（Agenda-book）<sup>vi</sup>

（Hanway 1759:83-89より要約）

この中でも、報告はもちろん中心的記録であり、その中には、

1 はみ出し者（slopman）に衣服を与えたすべての記録 2 少年（boys）のための出費

<sup>v</sup> Foul（不正）という語を使っているが、下書きという意味である。

<sup>vi</sup> その他の文書に載らない全ての事項を掲載した文書

(disbursements) 3 病者への看護 (curing) 費用 (expencc) 4 出港費用 (Charge) 4 協会の委員会室 (committee) の賃貸料 (Rent) 5 事務室 (office)・会計室 (compting-house) の賃貸料 (Rents) 6 書記 (Secretary) の給与 (Salary) 7 出納係 (accoutant) 及び書記助手 (assistant Secretary) の給与 8 給仕係 (Porter) の給与 9 笛吹き (fifers) への支払い (Charge)、また他のすべての費用 (expences)。

(Hanway 1759:85)

が掲載されるようになっていた。

この文書に対する意識の高さは、情報に対する意識の高さを示す。

日曜学校協会に関しては、収支報告への意識の高さが挙げられる。この報告を以下のように印刷して理事たちの知る権利を確保していた。

「X I. この慈善の収支報告 (Account of the receipts and disbursements) は、理事 (Governors) の検査 (inspection) に供せられるよう、毎年印刷さる。」

(Unknown 1787:11)

実際に、1786年末のこれらの収支の報告が、このプランには掲載されている。当然、全ての会員の名前と会費金額も公表され、半ペンスにいたる正確を期する内容が掲載されている。その他にも、バスの日曜学校のプランには、訪問者 (Visiter) が派遣され、学校の状況調査を行う (Unknown 1787:19-21) など、学校の現状に関する情報入手が行われていた。

このように、日曜学校でも情報をきちんと取得し、生かそうとの意図がうかがえたが、これらの慈善学校を受け継いだ諸組織が、やはり情報に敏感となり、また、会員に情報がいきわたるようにと努力していたという共通点を持ち、これらの活動を行っていたことが見て取れる。

## 第6節 組織構造

### 第1項 総会と委員会

前節の規約の中に現れているが、次に総会と委員会のシステムの継承が挙げられる<sup>vii</sup>。

ケンブリッジの慈善病院では、以下のように、総会が最高の権威をもっていることが明示されている。

「6. 当該理事 (Governors) たちが集合したあらゆる総会 (General Court) は、当該病院の院長 (President) および理事会 (Governors) の法人 (Corporation) の名前において、完全な力 (Power) と権威 (Authority) をもつ。」

(Public Hospital in the Town of Cambridge 1778:3)

この総会のもとにあって、理事の5名以上が週間委員会 (Weekly Board) を形成し、以下のように、この病院の方策を決定していた。

<sup>vii</sup> 委員会体制は、18世紀後半以降に発展していくことをクラークは述べている (Clark 2000:256)。

「11. 週間委員会（Weekly Board）は、患者の入院（Admission）と退院（Discharge）に関わる全ての事項（matters）を統制（regulate）する。また、事務官（Officers）や召使（Servants）の行動（Behaviour）を調査（enquire）し、報告書（Accounts）を調べ許可し、支払（Payments）について明示、総会（General Court）の準備を行い、その他の任務（Affairs）を実行する。これらを総会の認可のもとに行う。」

(Public Hospital in the Town of Cambridge 1778:4)

こうした形で、慈善病院においても、総会と委員会のシステムが、経営の基本となっている。

次にワークハウスの組織構造は、4節で述べたように、通常の博愛事業と異なり、会員による総会がなく、代わって最高意志決定機関として教区総会（Vestry）がその役割を担う。その点で、他の博愛事業と全く異なった存在と言えるが、言い換えれば、慈善学校と同様に、理事会が運営の実務を担うと言う構造を持つ。この理事会が、名称は異なるが、委員会と同様の存在であることを考えれば、ここにも委員会制が取り入れられていると考えるべきであろう。

続いて、棄子養育園では、他の諸慈善事業と同様に、4節で述べたごとくに、総会が最高意思決定機関として規定されている。もっとも、棄子養育園では、総会をただMeeting という言葉で呼ばずに、Genral Court と呼び、以下のようにその種類を分け、役割を分けている。

「通常総会（The Ordinary General Court）は憲章によって指定され、年次総会（Annual Court）においては委員会（Committee）の選挙が行われ、四半期総会（Quarterly Court）はその他の目的のためにもたれる。しかし、必要があるならば、特別総会（Extraordinary Court）が召集される。」

(Foundling Hospital 1759:4)

と3つの種類が規定されている。ただし、上記のように、この区別は単に機能的な区別であり、マリーン・ソサエティと同様、地位の上下を表すものではない。

棄子養育園では、実際の運営とその権限は、総合委員会にある。ただし、総会は規則と命令において、総合委員会を支配することになっている。この総合委員会の決定も4節で述べた総会の意志決定と同様に投票による多数決で行われる。ここでも、民主的決定法が守られている。

棄子養育園においても、具体的業務の実施機関として、各種の下部委員会が組織されていた。さらに児童のケアが着実に行われているか、会計処理が適切に行われているかなど、あらゆる経営・運営に関する職員の管理、業務の監査を行っていた（Hanway 1759:9）。

次にマリーン・ソサエティをみると、その創設者であるジョナス・ハンウェイが棄子養育園のマネージャーであるだけに、その機構・名称も共通する部分が多い。まず、総会がやはり General Court の名称で呼ばれ、3節に述べたように、年次総会と四半期総会に分類される。さらに、総合委員会の規定を設け、具体的業務について述べているが。それについては前節においてみてきた。その総合委員会のもとにある、やはり下部委員会（Sub-Committee）と称される委員会についてみると、

#### 「XV I. 下部委員会

これは、必要と思われる時に、協会の所有する建物に集まり、総合委員会（General Committee）メンバーの内2名の参加し、書記（Secretary）と出納係（accountant）と共に、

要求されるあらゆる業務 (business) を実践できる。また、規則 (regulation) を作るべきかを相談できる；しかし、これらは委員会 (committee) で確定するものとする」

(Hanway 1759:83)

と、総合委員会のもとにある、という明確な位階制が示されながら、様々な業務が下部委員会に付託されていることが見て取れる。こうした位階制による分業は、その名称とともにやはり SPCK の組織と共通するものがある。

最後に、日曜学校協会についてみると、やはり仕組みとしては総会と委員会のシステムを取っている。しかし、日曜学校協会では、明確な下部委員会の設置の規定はなく、3 節にあるごとく、委員会が実務の責任を負うことになっている。しかも、この委員会メンバーは総会の選任によっているように、総会の下部に委員会があることが明示されており、位階制のもとにあることがわかる。

このように、慈善学校および慈善学校運動から続く、総会と委員会というシステムが、組織運営の常識として、慈善の世界の中では受け継がれていった。

## 第2項 専従職員

次に、専従職員の存在であるが、この場合には、たとえば病院における医師のように事業の業務そのものを引き受ける職員ではなく、書記・会計など事業の経営に携わる専従の職員である。これは、組織性の発展の重要な要素である。特に、18世紀の間に協会の発展の中で、ボランティアで行っていた者の中から、給与を受け、専従職員となる者が現れるようになり (Clark 2000:251)、協会の中で独占的地位を占めるようになった (Clark 2000:256)。慈善学校運動の中では、SPCK の書記の専従化、また、執行員 (Agent) の専従化が起り、運動の中の重要な存在として活躍した。

先の慈善病院では、以下のように総会が事務員 (Officers) を雇用する権威を持っていることから、専従化した事務職員の存在があったことがわかる。

「8. 理事たち (Governors)、または彼らの9人以上は、総会 (General Court) において、状況に合わせ、または常に、病院の目的 (purpose) のために雇用が必要と思われる、事務員 (Officers) または他の者たちを採用する権威 (Power) を有す」

(Public Hospital in the Town of Cambridge 1778:3)

また、書記の給与に関する定義が以下のように行われていた。

「書記

98. 書記の給与 (salary) は、年10ポンドとす。またもし、病院の報告 (account) において何らかの特別な問題 (extraordinary trouble) が生じ、四半期総会 (Quarterly Court) で妥当 (reasonable) と認められるならば、同様の待遇が許可される。」

(Public Hospital in the Town of Cambridge 1778:17)

一方、ストラウドのワークハウスでは、教員以外の専従職員の記録はなく、会計・運営についても教員が関与していた状況が以下のようにうかがえる。



「ワークハウスにおいて遵守すべき規約（Orders）

I. 食事表（Bill of Fare）は、理事（Governors）の過半数（Majority）の賛成により、変更（Alteration）が行われるまで、男性教員（Masters）または女性教員（Mistress）によって保持される。」

（Unknown 1725:44）

この記録には、37箇所のワークハウスが記載されているが、多くの他のワークハウスでは、細かい状況の報告はなく、ほとんどの場合、教員の給与にしか言及していない。教員以外の給与に言及しているものとしてはウェストミンスターのグレーコートホスピタルがあるが、ここでも、教員以外の職員の給与は、男性教員の1/8、女性教員の1/4、という低賃金であり、現在の有償ボランティアのレベルでしかない。この賃金で専従ということは、下働きのいわゆる召使といわれる人々以外にはありえず、専門的な職員という意味は持ち得ない。

次に、棄子養育園をみると、4章で挙げた書記（Secretary）の専従化は明確には語られていない。しかし、以下に見るように、書記への給与の支給の可能性について言及している。

「定まった給与（certain Salary）は確約されていない。しかし、総合委員会（General Committee）により、報酬を受ける（reward）」

（Foundling Hospital 1759:15）

ここに、事務職員として書記の専従化の傾向を見ることができる。

一方、会計自身は5節に見たように、総会において投票によって選出される存在であり、専従となることは困難である。しかし、この会計には、実務を負う存在として会計事務官（Treasurer's Clerk）が設けられている。この事務官は

「彼は施設の建物（The House）に住まねばならず、毎年の会費（Annual Subscription）を集め、」

（Foundling Hospital 1759:16）

とあるように、施設の建物への居住が義務付けられており、専従の職員である可能性は高い。

このような、事務官としての専従化が行われていた職種が存在した可能性が、棄子養育園にはあり、クラークの述べる18世紀半ばの職員専従化の一端を担っていたといえる（Clark 2000:251）。

次に、マリーン・ソサエティであるが、「書記の給与」という表現が、報告の中に入れるべき文書として登場する（Hanway 1759:85）。しかも、この報告の中で、書記は6ページにわたり、実に19項目もの業務内容および業務心得を命じられており（Hanway 1759:100-105）その任務は、極めて複雑なものとなっていた。この書記の業務の複雑化は、SPCKに始まる協会の業務の専従化の原因であり、マリーン・ソサエティのこの業務内容は、その流れを受けていたと言える。

日曜学校協会については、はっきりと有給化を裏付ける文書はない。しかし、その初期の業務内容は以下のように多岐にわたるものであった。

「X II. 書記（Secretary）は、病気（indisposition）等によらない限り、個人的にこの慈善の

全集会 (all the Meetings) に出席する。もし、病気に罹患した場合は、代理人 (deputy) を送らねばならない。彼は、正確な (accurate)、また正しい書式に則った (methodical) それまでの報告 (account) を保管し、またこの慈善に付随する (incidental) 全ての業務 (business) の報告も保持せねばならない。彼は、ロンドン及び近郊 (vicinity) の人々に年会費 (annual subscription) の申し込みをしなければならない。また、500ポンドにおよび1件または2件の債券 (bonds) に結びつき、月例委員会 (Monthly-Committee) によって承認された2個以上の担保 (securities) を作らねばならない。彼は、会費の全額を会計 (Treasurer) または会計係 (Banker) に支払わねばならない。そして、毎月委員会 (Committee) に向けて報告を作成する。また、常に100ポンドを自らに所持してはならない。」

(Unknown 1787:12)

このことから、日曜学校においても、書記が専従していた可能性は高い。

専従化ということについては、このように明確な記録というものは、どの施設においてもあまりないが、18世紀を通して事務官の専従化が進んだことは、クラークも述べるところであり (Clark 2000:276-278)、上記のように、それぞれの施設における書記等の業務の煩雑化は明らかであり、これらの組織でも、専従化の傾向は存在した可能性は高い。

## 第7節 まとめ

本論文において、慈善学校後の様々な事業が、慈善学校運動のもつ組織的特徴を受け継いだ様子を見てきた。慈善学校の直接的影響を受けたもの (日曜学校など)、間接的影響を受けたものなど、それぞれの影響の受け方は違うが、総じて、協会組織の歴史における一つのメルクマールとなった (Clark 2000:246-272) 慈善学校運動、特に SPCK の残した特徴を受けたと考えられる。この特徴の多くは、上述したように慈善組織協会にまでつながるものであり、現在の我々とも決して無関係の存在ではない。それはこれまでに記したように、近代的組織の諸特性だからである。

まず、会費・会員と言うシステムについてみてきた。このシステムは、18世紀博愛事業を通して、その基礎であり続け、19世紀にまで引き継がれていった。このシステムは、現在の社会福祉法人には存在しないケースが多い。だが、NPO では、現在もこのシステムが、その組織機構の基本である。

上述したように、この継承が直接的であるかどうかは、いまだ証明できてはいない。しかし、慈善組織協会などの19世紀慈善への継承の可能性を見れば、福祉にかかわる NPO における直接的継承の可能性は高いというのではないか。実際、グレイが述べるように、慈善学校に代表される会費のシステムの導入は、Fresh Starting Point (Gray 1906:79) として、慈善の歴史を画するものであるからである。その意味は、前章で述べたように、中世の共同体から分離された、独立した個が、自由意志で費用を拠出し、組織の役割を担うことである。これは、近代組織の基本的特徴であり、組織＝契約の東 (神戸 1999:15-16) という経済学の見方と共通する。

この会員と言うシステムから以下の特徴が現れ継承された。

まず、目的の明示であり、これは自由意志による協働体の出発点ともなる要素であるが、棄子養育園を始め、マリーンソサエティ、日曜学校にも受け継がれていく。当然、慈善組織協会も、このような目的の明示には熱心であった。こうした目的の明示は、現代の我々が、何らかの事業を興す時には是非求められることであり、我々にまで続く流れの大きな源流の一つとして、慈善学校および慈善学校運動が存在していたことが窺える。

次に、その民主的体制も、次世代に受け継がれていった。しかし、セントジョージ病院のように、多少反動的な継承が行なわれる場合もあったが、その後の慈善事業も、総じて民主的体制を受け継いでいったようである。この民主的体制は、現代でもヴォランタリーセクターの大きな特徴であり（角瀬1999:11-12）、現代の我々にまでつながるものと言える。

さらには、成文化された規約、特に意志決定の方法を規定した規約についても、その後の諸事業との間に有意の連関が見られる。総会の優越性、特に四半期総会の存在などは、慈善学校からの伝統と考えるべきであろう。これが基本の体制を変えることなく、19世紀にまで脈々と受け継がれていったことは、この意志決定法の持つ、汎用性と意味の深さを知らせる。

次に、情報の公開原則も、同様に後世に受け継がれていった。会計報告や、多くの議事録が、SPCKと同様に作成され、年次報告が刊行されるようになった。出版も含めた情報公開の原則がSPCK後の様々な事業に引き継がれていった。さらに、情報の管理に関する姿勢も、後世に受け継がれていったことをみた。棄子養育園やマリーン・ソサエティのように極めて詳細な内容が掲載されるような組織もあった。そこには、利用者の記録まで含まれ、1章で述べたように、棄子養育園においては、4年の間に強制的に預けられた1万5千人の赤ん坊のうち1万人もの子供が死ぬような混乱状況にありながら、そのうち消息不明の子供はたった4人しかいなかったほどに、記録の保存が徹底されていた。このような厳格な情報の管理は、現代にはより強く求められることである。

さて、情報の公開は、全国社会福祉経営者協議会による「社会福祉法人経営の現状と課題」にあるように、現在の社会福祉に強く求められていることである。ただし、現在求められていることは特に、利用者に対する情報開示であり、18世紀博愛事業の情報の公開は、基本的には会員に対する者であるという大きな違いがある。しかし、上述の棄子養育園のような厳密な情報特に書類の管理は、現在の我々にも強く求められているところである。これらの情報の公開原則、管理は、現在必要とされながらつい忘れ去られがちな要素である。

最後に、その組織構造においても、この継承は行われ、特に総会と委員会のシステムは、会員の組織構造として、19世紀に向かって受け継がれていった。同様に、組織構造として、専従の職員が事務官として勤務する体制が受け継がれていった。もちろん、その組織の大きさによるが、棄子養育園やマリーン・ソサエティのように、専従の事務官の存在が窺われる組織もあらわれるようになり、クラークが述べる、18世紀後半からの協会では事務員の専従化と、官僚化という事態が起こってくる。こうした専従化は、SPCKを先駆として起こってきた事態である。

この基本システムに付随する、目的の明示、民主的体制、規約の制定、情報公開、組織構造の進展も、会員システムと同様、18世紀博愛事業を通して受け継がれると同時に、発展していった。特に組織機構や意思決定法は、慈善学校が所有した単純な方法から、より精緻なものへと進んでいった。これらの内容は、社会福祉法人の準則の2章 役員及び職員と極めて似通った内容となっている。

このように、多くの近代的要素が、慈善学校および慈善学校運動から、18世紀博愛事業へと受け継がれていき、それは現在にまで続いてきた可能性もたかい。しかし、こうした多くの近代的要素を持ち、後世の一つの指針ともなった慈善学校および慈善学校運動であるが、その継承を見ていくと、我々が習うべきではない要素も見えてくる。それは、利用者の主体性の軽視、むしろ無視である。

慈善学校以来の18世紀博愛事業の中には、会員となるべき存在としても、民主制の対象としても、意志決定の主体としても、利用者自身が入るということは、その考え方においても一切存在していなかったことが、ここまでの諸文献から読み取れる。たとえば棄子養育園の目的に表されたことばからも、貧困者は憐憫の対象でしかないことが読み取れる。



この姿勢は、現在の我々が受け継ぐべきものではない。確かに、利用者は、ケアの対象者でこそあるが、主体的意志を持って自らのケアに参加する者でもある。このような視点を現代の我々は持たねばならないが、それは、18世紀の彼らには全く意識の中に上がらなかった。

こうした欠点を抱えながらも、時に我々を上回る近代的組織性を、彼ら慈善学校および慈善学校運動は持ち、それを後世へと継承していったのである。

## 文献集

- Allen, W.O.B, McClure, Edmund (1898) Two Hundred Years The History of The Society for Promoting Christian Knowledge 1698-1898 Burt Tranklin New York.
- Andrew, Donna.T (2001) 'To the Charitable and Humane': Appeals for Assistance in the Eighteenth-Century London Press, Huge Cunningham and Joanna Innes .eds. Charity, Philanthropy and Reform -From the 1690s to 1850. Palgrave, 87-107.
- Clark, Peter (2000) British Clubs and Societies 1580-1800 : The Origins of an Associational World. Oxford University Press.
- Foundling Hospital (1759) Regulations for Managing the Hospital for The Maintenance and Education of Exposed and Deserted Young Children. London.
- Gray, Kirkman B. (1905) A History of English Philanthropy : from the Dissolution of the Monasteries to the taking of the first census. P.S.King.
- Hanway, John (1757) Motives for the Establishment of the Marine Society. London.
- Hanway, John (1759) An Account of Marine Society, recommending the Piety and Policy of the Institution, and pointing out the Advantages accruing to the Nation. With the Motives for Establishing it. Also a full detail of their Rules and Forms of Business. London.
- Jones. Thomas (1799) An Account of the Foundling Hospital in London.
- Owen, David (1964) English Philanthropy 1660-1960. The Belknap Press of Harvard University Press.
- Picard, Liza (2000) Dr. Johnson's London. Weidenfeld & Nicholson. (=2002. 田代泰子訳『18世紀ロンドンの私生活』東京書店.)
- Public Hospital in the Town of Cambridge. (1778) Rules and Orders of the Public Hospital in the Town of Cambridge, founded by Dr. Addenbrooke, and Supported by Voluntary Subscriptions. Cambridge University.
- Slack, Paul (1999) From Reformation to Improvement. Public Welfare in Early Modern England. The Ford Lectures Delivered in the University of Oxford 1994-1995. Clarendon Press. Oxford.
- Society for Promoting Christian Knowledge (1741) An account of The Society for Promoting Christian Knowledge Joseph Downing.
- Unknown (1725) An Account of Several Work-Houses for Employing and Maintaining the Poor ; setting forth The Rules by which they are Governed, Their great Usefulness to the Publick. London, Joseph Downing.
- Unknown (1743) The Foundling Hospital for wit. Intended for the Reception and Preservation of such Brats of Wit and Humour, whose Parents chuse to Drop them. Containing All the Satires, odes, Ballads, Epigrams, &c. that have been wrote since the Change of the Ministry, many of which have never before been Printed. G.Lion near Ludgate. London.
- Unknown (1758) To the Marine Society, in praise of the Great and Good Work they have done by Clothing and Fitting out for the Sea-service 2682 Men, and 1868 Boys, in the space of fifteen Months.
- Unknown (1787) Plan of a Society Established in London, for the Support and Encouragement of Sunday-Schools in the different Counties of England. London.
- 市瀬幸平 (2004) 『イギリス社会福祉運動史』川島書房.
- 角瀬保雄 (1999) 「非営利・協同組織とその経営—発展と現状—」角瀬保雄・川口清史 編著『叢書 現代経営学—7 非営利・協同組織の経営』ミネルヴァ書房 1-14.
- 神戸伸輔 (1999) 「経済学では組織をどのようにみてきたか」『組織科学』33(1), 14-23.
- 長谷川貴彦 (1999) 『アソシエーションの生成—近代イギリスにおけるヴォランティアの社会的起源をめぐって』東京大学大学院人文社会系研究科 1999 年度博士学位論文.